

新任の教師に望む

関 計 夫

一、正しい教育のあり方

幼稚園の先生になる皆さんは、たいへんよい職業をお選びになったことをお祝い申し上げます。

どんな職業でも多少なりと社会的意義はあるであろうが、皆さんはやがていつか家庭の人となつて、お子様をもうけるであろう。その前に子どもを育て方について実地に経験を積むことはとても役に立つと思う。

このことは、小学校以上の教師についてもいえるはずであるが、現在の小学校以上の教育は極端な知育偏重であつて、正しい教育の姿からはおよそ縁遠いから、家庭に入る前の教養としては、甚だ不十分である。ほんらい、学校教育を受けなければならないほど、人間が完成されるはずであるが、日本の現状はそうなっていない。高校生は中学生より人間的に立派であるといえるであろうか。大学生は高校生より人物がすぐれているといえるであろうか、上級に進学するほど、知識技能がまじていることは確かであるが、人格が向上したという保証は全然ない。先だって、東大生と慶大生が就職内定の会社の金庫を盗み、あかないので返しに行くところを見つかるや、「返せばいいんでしょ。返せば」といったということが新聞に出ていた。もつとも名門であり有名校である慶大や東大がこの始末である。これほどゆがんだ教育はないであろう。

いまの学校教育で比較的に正常な姿をとれるのは幼稚園だけである。ここだけは、人格教育、情操教育、社会性の教育など、人間教育が考えられている。どうか、そのような正しい教育のあり方を守ってもらいたい。

というのは、幼稚園の中には、教育大学の付属小学校に入学しやすいというようなことを誇りにしているものがあるからである。在園中に入試テストの準備をしたりする。あるいはまた、算数や国語を教えたり、理科を教えたりする幼稚園がある。小学校へ行ってから習うことを、幼稚園のうちにつめ込むのである。

幼児の生活は何よりも遊びである。遊んでいる間に、幼児は絵をかくたり、リズム遊びをしたり、ものを観察したりする。

安全教育なども、幼児が元氣よく、じょうずに遊んでいけば、その中におのずから含まれる。だから、子どもが楽しく遊べるように指導するのが、先生の任務であるといつてよい。

幼稚園は集団生活であるから、その間に社会性や他人への思いやりの心も育ていく。ひとりでもブランコをいつまでも上領していればケンカになるし、お砂遊びでも、みんなといっしょでないと楽しくはない。

毎年、たくさんさんの幼児に絵をかいて貰っているが、幼児は他の子どもがかいた絵を、目を皿のようにして眺めるのが常である。幼児には友だちのすることが、いちばん影響するのである。

幼稚園教育という言葉にだまされて、小学校教育みたいなことをしないでようにして貰いたい。幼稚園では、子どもたちが仲よく、楽しく遊ぶことができるように指導するのがよい。

それからもう一つ、幼稚園と保育園を別物だと思わないことである。幼稚園は文部省系統の教育機関で、保育園は厚生省管轄の保育機関などとは思わないことである。一方が教育で他方が親代りをするのだというような間違つた考え方をする人がいまでもある。子どもこそいい迷惑である。同じ子どもが管轄が違っただけで、異なつた取扱ひを受けるとすれば、これほどバカげた話はない。保育のない教育もなければ、教育のない保育もありえないのだ、文部省と厚生省の二つに分けることが、そもそも間違ひのものなのだ。

ところが、現場の先生のなかには、保育園の保母とは違ふのだ、自分は教諭なのだ、といつて、保育園の保母に対して優越感を抱いている人ときどき見かける。正式にはそのような区別をすることになっているが、世間は幼稚園の教諭などめつたにいいはしない。幼稚園の保母といふのがふつうである。教諭だ、保母だと、称呼を異にするのがそもそもおかしいのだ。

二、宗教心を持つて

小学校以上の教育では宗教教育をすることが許されていない。これは長所ではなく、短所である。ほんとうは宗教教育は必要なのであるが、どの宗派を選ぶかが問題になるので、やむをえず宗教にタッチしないだけである。幼稚園でも、公立の場合、やはり宗教教育ができない。しかし、幼稚園には私立のものが多く、ここではキリスト教、仏教、神道などを基調とした宗教教育がおこなわれている、これはたいへん大切なことである。「三子の魂百まで」といわれる幼時に、魂の養いとなる教

育を受けることは、基本となる教養である。だから、その指導者になるあなたにもし宗教心がなかったら、勤めている間に勉強して、ぜひ何らかの宗教的信仰を持つようにおすすめしたい。

公立の幼稚園に勤める場合は、特定の宗派にわたる宗教教育を行ってはならないが、日の出、日没、偉大な富士山、良賢上人、花まつり、クリスマスなどを通じて、宗教的情操教育は行なわねばならない。この点は小学校以上の学校についても同様である。宗教教育はいけないが宗教的情操教育は必要ということになっている。しかし、指導者である教師自身は何らかの宗教心を持っていることが望ましい。口に出して説かないでも、それは自ら子どもに大きな感化をおよぼすのである。それは教師としての大切な資格であるとさえいえよう。つまり、何らかの人生観を深く蔵していることは、指導者としては必要なことなのである。

あなたが教育者として、人の子を導こうと努力するとき、きっとあなたはあなた自身を導いてくれる誰かを求めることになるであろう。その時、先輩や園長の助言を仰ぐのは当然である。しかし、もっと基本的に人生の道しるべとなるものを要求しないではいられないであろう。その時、あなたは宗教に入りやすくする。その機会に求道心を起こして、どの宗教なりと、信仰の道に入れたら、それはあなたの人生のバックボーンとして一生の生活指針を得たことになる。こうして、幼児を指導しようとしたあなたが、逆に幼児に導かれて天国の道に進むことになる。それは幼稚園教育にもよいことである。

どの宗教を選んだらよいか、あなたは迷うかも知れない。偉大な宗教なら、どれでもお気に召す宗派で差し支えない。いまはよい世の中になった。先日、カトリックの幼稚園の研究会で、ハンス・ヘルヴェクさんに会った。この人は上智大学の先生であるが、カトリック教育協議会理事長である。ヘルヴェクさんは、「仏教であろうと、神道であろうと、いいものはいい、それはキリスト教からみれば、キリスト教なのだ」と語った。他の宗教に対して寛容とかトレラントというのではない。もっと積極的に同じものだと考えるのだ。そういえば、キリスト教信者の佐古純一郎さんが「親鸞」という本をかいて、親鸞上人を絶賛しているのも同様である。同様に、仏教信者はキリスト教を仏教だと思えばいいのである。こういう考え方は今までにはなかったことである。宗教心の厚い人を苦しめていた雑問はこうして今日をはじめて解決の曙光をみているのである。

だから、ちょうどよい時である。機は熟している。あなた自身の心の糧として、宗教心を持つことをおすすめしたい。

三、たえず勉強を

幼稚園はこじんまりしている。園児は百二十名位までで、千人も二千人もいるところはない。職員も数名である。だから、家庭的である。そこで、園長の個人的な仕事に使われるようなことがあるかも知れない。

小学校や高等学校には労働組合があつて、待遇改善を訴えたり、研究会を開いたりする。教育委員会や文部省から研究指定を受けて、一生懸命に生徒指導の研究をしたりしている。また、PTAで講演会を開いたりしている。

ところが、幼稚園は十年一日の如く、旧態依然といった感じがある。父兄の人数が少ないから、その援助で講演会を開いたり、研修に出かけるようなことができない。幼稚園での研究発表会など、小学校付設の場合以外に、きいたことがない。幼稚園はまるで沈滞しているように思う。だから、あなたが新任で就職された当座は、何もかも新しく教わることが多いだろうが、その時に感じた新鮮な感想を何かに書きとめておいて貰いたい。そのうち慣れっこになると、もう感じられなくなってしまうものだ。忘れないうちに、日記でもいいから、なるべく詳しく書いておくとうい。

そして、二年、三年と慣れたら、やがて現場の教育に新風を吹き込んで貰いたい。先輩によいところは無論あるが、十年一日の如く伝統でやっている職場は決して理想的ではないはずである。

社会は理想通りにはいかないとか、現場は厳しいものだとかいって引っ込み思案になれば、あなた自身もやはり、先輩と同じぬるま湯の人となることは必定である。

たとえば、子どもの絵の指導の仕方とか、音楽の導き方とか、遊びの指導など、日進月歩の勢いでたえず進んでいる。精神衛生やカウンセリング、グループ・ワークの仕方など新しい研究がどんどん進んでいる。わけても、子どもの正しい見方が必要になっている。いまの子どもは成長がずっと早くなっているのに、いつまでも赤ん坊扱いしている幼稚園が少なくない。毎日、子どもと接触しているのに幼稚園の先生はあんがい子どもを知らないのだ。これは惰性で教育し、新鮮な感覚でたえず子どもを眺め、子どもに驚くことができなくなっているからである。

これを打破するには、あなた自身がたえず勉強する努力を払う以外に方法はない。マンネリズムに陥ることのないために、新任のあなたにこのことを申し添えたい。